

## 平成27年度福島県生涯学習審議会議事録

1	日 時	平成28年2月10日(水)13時30分～15時25分
2	場 所	ホテルサンルートプラザ福島 芙蓉 I
3	出席委員 (敬称略)	小沢喜仁、古川雅之、石田全史、小野修、双石正義、齋藤公子 佐久間静子、三瓶千香子、首藤亜希子、高橋明子、中山恵理 松本トミ子
4	欠席委員 (敬称略)	下山功枝、中尾根康宏、水嶋克典
5	次 第	1 挨拶 福島県文化スポーツ局長 篠木 敏明 2 議事 (1) 福島県生涯学習基本計画の進行管理について (2) その他
6	会議記録	別紙のとおり

以上

平成28年3月 // 日(金)

議事録署名人 首藤 亜希子



中山 恵理





〔議事〕

<p>司会</p>	<p>只今より、平成27年度福島県生涯学習審議会を開催いたします。私は福島県文化スポーツ局生涯学習課石田と申します。本日の進行を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。はじめに、文化スポーツ局長より、ご挨拶を申し上げます。 (文化スポーツ局長挨拶) 続きまして、小沢会長より御挨拶をお願いいたします。</p>
<p>小沢会長</p>	<p>皆さん、改めましてこんにちは。昨年の大きなイベントといたしまして「生涯学習ネットワークフォーラム2015福島大会」を開催いたしました。また、お手元の資料の中に緑色のパンフレットがございますが生涯学習基本計画をまとめたもので、この中に基本理念として「ともに生き、ともに学び、ともに支え合う＝共生・協学」が掲げられております。ネットワークフォーラムでも復興を意識したテーマ「学びをひろげる、つなげる、いかす」を設定し、様々な取組や情報交換をしたところです。本日、桜の聖母短期大学三瓶先生も御参加いただいておりますが、ファシリテーション、ワールドカフェという形で議論の仕方を提案させていただき、参加者が一つのテーマ「地域活性化」について議論をいたしました。また、イベント等になかなか人が集まらないという課題がある中、メインイベントを見据え、交流、自然、教育、復興・復旧等やエクスカージョン等のプレイベントを開催したのも大きな仕掛け作りではなかったかなと思っております。</p> <p>また、昨日、COCプラス事業という県内の4大学と福島高専、福島県内の諸団体がタッグを組んで地域人材の定着を目指し、動き始まったところです。これは人材を活かすことができ、生涯学習に通ずるものがあります。また、大学側から見ると、学生たちに様々な場面で活躍する場を与えることができる、皆さんと同じように人づくり、地域づくりなどに意識を持ち、活動することができるなど、大変有意義な事業でございます。</p> <p>さて、福島県人の特質として「人柄が良い」と言われていますが、この由来はいろいろな物の豊かさから来ているのではないかと考えております。その豊かさが大震災及び福島原子力発電所事故により傷ついたような状況ではありますが、有り余る資源や豊かさをどのように持続させていくかというところに人が活躍するチャンスがあると考えております。多くの方が様々な豊かさを求めて福島に集ってくださる、または、たまたま福島においでになり、福島の豊かさ</p>

	<p>に気づき、福島を愛し、居着いてしまう方が増えてきていると認識しています。これは人が福島に行きやすい、住みやすい、魅力ある福島であるという証です。これからの福島は復興から創生へと位置づけ、今後もこのような「ふくしま」を作っていくことが大切なことだと思えます。</p> <p>最後に、この基本計画が平成25年に作られてから4年目となり、生涯に渡って、学び続ける事の大事さがこの「福島県生涯学習基本計画」の中に記載されていると考えています。</p> <p>本日は短い時間ではありますが、皆様のそれぞれのお立場から、事業の進捗状況について、御忌憚のない御意見をよろしくお願いいたします。</p>
司会	<p>ありがとうございました。</p> <p>平成27年度、新たに生涯学習審議会委員になられました方の紹介をいたします。「福島県公民館連絡協議会会長、双石正義委員」です。続きまして「公益社団法人日本青年会議所東北地区福島ブロック協議会会長石田全史委員」です。</p> <p>次に事務局と関係課から出席している県の職員を紹介いたします。</p> <p>文化スポーツ局長 篠木敏明でございます。次長 阿部雅人です。部参事兼生涯学習課長 力丸忠博です。文化振興課総括主幹兼副課長 村上利通です。同じく文化振興課主幹 大波真吾です。教育庁社会教育課主任社会教育主事 平久井淳です。</p> <p>なお、本日の会議ですが、下山委員、中尾根委員、水嶋委員が、都合により欠席となっておりますこと、また、委員の過半数が出席されておりますので、福島県生涯学習審議会条例第5条第3項により会議が成立しておりますことを御報告いたします。</p> <p>これ以降の議事の進行につきましては小沢会長にお願いいたします。</p>
小沢会長	<p>議事に先立ちまして、本日の議事録署名人を選出したいと思えます。首藤委員及び中山委員にお願いしたいと存じますが、よろしいですか。</p>
首藤委員 中山委員	<p>はい、わかりました。 (他の委員 異議なし)</p>
小沢会長	<p>それでは議案に入ります。 議事の1番目「福島県生涯学習基本計画の進行管理」について審</p>

	<p>議します。</p> <p>「福島県生涯学習基本計画の進行管理」について事務局より報告いただき、その後、皆様からの意見を頂戴したいと思います。</p> <p>それでは、事務局より、福島県生涯学習基本計画の進行管理についての説明、報告をお願いいたします。</p>
生涯学習課長	<p>生涯学習課長より以下の内容について資料をもとに報告、説明</p> <p>(1) 福島県生涯学習基本計画について</p> <p>(2) 平成27年度福島県生涯学習事業の実施状況について</p> <p>(3) 指標の進捗状況について</p> <p>(4) 平成28年度福島県生涯学習事業計画について</p>
小沢会長	<p>本年度の取組、進捗状況について説明がありましたが、委員の皆様より、御質問、御意見等がございましたら、お願いいたします。</p>
古川副会長	<p>以前、計画を作成したときにも確認したのですが、「学びネット」について新しくする予定があるとのことでしたが、直接、生涯学習課のホームページとリンクさせるという認識でよろしいですか。</p>
生涯学習課長	<p>新しくすることにつきましては新年度、検索システムに代えまして、生涯学習課のホームページから各関係機関に直接リンクを貼るような形での見直しをしたいと考えており、新年度の対応となります。</p>
古川副会長	<p>学びネットは現在はあるのでしょうか。</p>
生涯学習課長	<p>現在は運営しております。</p>
小沢会長	<p>学びネットに関わる質問でした。他にございますか。</p>
双石委員	<p>9ページの「公民館主事等の研修の充実」についてです。28年度も実施予定とのことですが、県公連でも独自の研修会、あるいは主事部会を実施してまいりました。27年度中にも主事部会がありましたが、独自の研修会開催が厳しい状況です。このため県公連では、この主事部会を廃止することになりました。次回の総会ではそのような内容の事案を出さざるをえない、それぞれの単独での動きが厳しい、予算もないというのが大きな理由です。また、職員の兼務が多くなり、研修に出て行くのが厳しいという意見が地区公民館からありました。そのような状況の中、県主催で主事研修等を開催していただけることに感謝申し上げます。</p>
小沢会長	<p>この研修に関して、お願いいたします。</p>
平久井主任	<p>「公民館主事等の研修の充実」につきましては、県教育委員会社会教育課が担当しております。この事業は概ね3年未満の公民館職</p>

	<p>員、あるいは市町村の生涯学習関係の職員、公民館主事を対象とした研修を毎年実施しております。また、「福島県市町村社会教育担当者研修会」、こちらは概ね5年の経験のある市町村の職員の皆様を対象とした経験者研修となっております。それぞれの事業、2日間の研修として開催しています。来年度も同様の開催をし、講師陣の充実を図り進めてまいりたいと考えておりますので、県公連の皆様、ぜひ、こちらへの参加よろしく願いいたします。今年度につきましては、参加者が26名と少ない結果でした。この件につきましては、9月の開催日に大雨が降ってしまい、2日目の参加者が各市町村での災害等の対応で参加できなかったという事がございました。次年度は、日程等の調整をし、より一層の充実を図りたいと考えております。</p>
双石委員	<p>県公連組織自体のあやふやさ、脆弱な状態が出ていますが、各地区の公民館は元気ですので、誤解のないようお願いいたします。</p>
小沢会長	<p>現在、担い手不足の問題が色々なところに出てきております。県公連も例外ではなく、背景としてお話しいただいた中に予算の問題であるとか、兼務化の問題なども挙げられました。このような場ですので、状況等一步踏み込んだ説明等いただければありがたいのですが。</p>
双石委員	<p>まず、県公連そのものの活動が弱くなっております。県内には256の公民館があり、各方部ごとに地方公民館連絡協議会、地公連があります。その地公連が県公連を脱退するという事態が起きております。伊達、両沼、喜多方を中心とした耶麻の3つです。各公民館から研修会等への参加や予算の確保をするのが容易ではないなどの意見が挙がっており、ビルドがあればスクラップせざるを得ない、公民館で新たなことをおこそうとすると、財政サイドから、一方が増えたと一方が減るという財源確保の問題があります。また、必ずしも公民館活動が不可欠ということではありません。公民館は減ってはいませんが、〇〇センター、行政センター、生涯学習センター、市民センターなど、多様な機能が合わさったセンターになると公民館業務がおろそかになる可能性があり、職員の体制に関して言えば、小さな地区ですと、公民館の正職員がいないところも数多くあります。つい私たちは正職員がいないからと言い訳をしがちですが、全国的にみると中学校単位あるいは小学校単位で公民館を持っている支所があります。そういった所でも、職員がいなかったり嘱託2人</p>

	<p>体制であったり、地元から出ている嘱託員であったりと少人数でも大いにまちづくりに関わり、感銘を受けるような活動をしている公民館はたくさんあります。しかし、県内ではそういったセミナーや研究集会などの事例を見ても目立った活動がありませんでした。少人数でも活動できるんだという情報をいかに地公連やそれぞれの公民館、団体に落とししていけるのかが私の立場だと大切になってきます。そういった意味での職員の兼務化、職員が少なくなっていることに対して言い訳しがちですが、やる気、発案、発想そしてそれを理解してくれる上司がいる事によっては、予算であるとか、人数であるとかに関係なく、大いに素晴らしい活動ができるのではないかと考えています。</p>
小沢会長	<p>福島市であれば学習センターという名前ですが、公民館扱いでよろしいでしょうか。いま、お話をお聞きしますとやはり担い手の方に問題があるのかなと思います。制度化されているところから離れて公民館活動を実施されているとすれば、その方々に対する研修とか私的な人は主事研修に参加できないとなれば公民館活動全体の脆弱化につながりかねない、教育的な研修のあり方については変えなければいけない、この辺についてはどうでしょうか。</p>
双石委員	<p>先ほどの話にもあったように、県公連独自の研修を実施するのは大変難しい状況です。しかし、公民館の職員が目標や意欲を持つ取り組みとして、表彰を行っております。正職員に限らず、嘱託、臨時の方、誰でも10年間、ご尽力いただいた職員の方は表彰の対象になっております。</p>
小沢会長	<p>生涯学習の仕事をする際に、職が仕事をさせるのではなく、いろいろな立場の人が時には学び手になり、時には教える側になり、リーダーシップを取って進めるような方々の存在が必要になるのかなと思います。ひとつ、大きな課題の話題提供をいただいたように思っております。</p> <p>他の観点ではいかがでしょうか。</p>
高橋委員	<p>喜多方市の高橋と申します。5ページにあります「地域でつながる家庭教育応援事業」についての質問ですが、(2)の親育ち応援学習プログラムを県内小学校新入学児童保護者に配布したとありますがこれは、「わくわくどきどき」の冊子のことでしょうか。これは28年度も継続とありますが、来年度も配布される予定でしょうか。</p>

平久井主任	<p>まさに「わくわくどきどき」のリーフレットでございます。26年度の事業といたしまして、おおよそ3年分のリーフレットを確保しております。更に毎年、改善を加えましてワークシートのような形式になっておりますが、今回もこのワークシートの部分を見直しました。以前のものを使わない形ではなく累積する形でホームページにも新たなワークシートを掲載しております。来年度につきましても、リーフレットの配布、ワークシートの見直し、それに伴うホームページの公開を考えております。</p>
高橋委員	<p>今、お話をお聞きして安心いたしました。今年度、このリーフレットに触れる機会がございまして、就学時健診の時にどのくらい活用されているのかとても不安でした。このリーフレットをどのように使ったら良いのか分からない、学校に送られても「就学時健診の時に親に渡せばいいんだ。」くらいで済んでしまっている。このリーフレットは親が見て「なるほど」と思う部分がたくさんあります。また、ファシリテーター用の資料もありますので、ぜひ、就学時健診でこのリーフレットを活用してもらいたい、と強く思っているところです。そこでこのリーフレットの使い方講座のようなものを公民館やPTA、地域の家庭教育に関わっている人材に広め、市町村の教育委員会にも「地域にこのリーフレットを扱える人がいます」と言う風に、繋げていただけたらうまく活用できるのではないかと考えております。</p> <p>これから小学校に入る子どもを持つ親さんを対象に就学時健診時、このリーフレットをみんなが使えるような、何か良い方法はないか対策を考えていく必要があると思います。私自身、地域的に取組をしているつもりですが、声が届いた2、3校でやってもらえるみたいな感じで残念でならなかったので、有効な活用をしていただきたいと思います。</p>
平久井主任	<p>今年度、同じ事業の家庭教育応援リーダー養成事業、家庭教育支援者スキルアップセミナーを開催いたしました。このセミナーに参加した方にアンケートを取らせていただきました。「受講者スキルをどのような機会に発表していますか、活用していますか。」というような内容です。受講者の方々の情報やアンケートの結果など、我々と市町村の間で共有できるような方策をこれから考えていく方向です。</p>



小沢会長	<p>情報等の活用の仕方ですが、家庭教育支援者スキルアップセミナーを7講座2回総人数320名の方が受けてらっしゃるとなると、アンケートの集計、結果の活用は今後大事になってくるとおられます。就学時健診時の「わくわくどきどき」リーフレットの使い方ですが、小学校の数が福島市内では60くらいですので、県内ですとかなりの数になります。小学校の数だけ就学時健診があるわけですので、学校やPTAの協力体制がないと活用されないのかなと思っております。一つのきっかけ作り仕掛け作りとして、せっかく作られた資料が、いろいろな形で利用されることはかなり重要です。制度化していく必要があるのかもしれませんが、親業は一度だけであり不安に思っていることもあると思います。また、出生率の問題もあります。これからますます子どもの数が少なくなってきましたと、親同士の情報共有が必要になってきます。今のご指摘を受けて、この親という業と言いますか役割と言いますか、役目を果たすためにみんなで生涯学習的に関わると言うことも必要だと思われまます。今後、学校とPTAが主流になるかもしれませんが、多くの方が関わることによってまた、違った講座になるのかなと思っております。</p>
小野委員	<p>会津若松市の小野でございます。今の件に関連しまして、会津若松市内には小学校20数校ございますが、昨年10月に就学時健診時に家庭教育講座を行っております。就学時健診に関しまして今までは教育委員会が主体で、学校をお借りして検診活動、家庭教育活動を行ってまいりました。28年度から会津若松市では「学校主体で就学時健康診断を行ってください。」と教育委員会から学校の方へ話があり、先生方が「どういう形で、どう対応すればいいんだ」ということがありました。実施する内容等は変わらず、教育委員会主体から学校主体になるということでしたが、そのあたりでもし、情報等お持ちであれば教えていただきたいのですが。この件は会津若松市だけなのでしょうか。</p>
平久井主任	<p>就学時健診の実施形態と言うことでよろしいでしょうか。こちらにつきましては市町村教育委員会による判断で、学校を会場に教育委員会の職員が実施するという市町村もございませうし、教員の立場で検診に携わる市町村もあります。それぞれの市町村ごとに適切な形で運営がなされていると考えられます。</p>

佐久間委員	<p>いわき市では就学時健診時に地域の文化的団体、社会教育委員を体験した方、あるいは元教員が市内全小学校を対象に子育て講座を行っています。子どもたちが検診をしている1時間くらいの時間に、新しく入学する保護者を学校に集めて、今、お話しいただきましたパンフレット、リーフレット等を用意し、一つモデルケースもあるので、それを中心に講義を行っております。その後、親からの質疑応答を行います。子育て講座終了後には聴いた講義について保護者からどのような感想を持ったのかアンケートを取り、全てまとめて、講師に情報提供してくれます。講義する方もかなり勉強にはなります。</p>
小沢会長	<p>それぞれの地域で差があるようですが、親業をしていく若い世代のための教育、循環型の教育とでもいうのでしょうか。このような教育が成立してくれると嬉しいなと思います。</p>
首藤委員	<p>私も小学1年生を持つ親ですが、親は何が一番聞きたいのかというと、学校に入学してから「うちの子は学校でやっていけるのか」とか、「友達はあるか」というところに関心があり、不安な部分だと思います。そのようなことに関心があるお母さんですと、お友達のお母さんと情報交換ができるんですが、転勤で来られた方や、お友達がいない保護者さんは、すごく不安なのではないかと思います。そのような保護者さんの声を聞いた上で子育て講座の内容を決定したり、親が今、どんなことを考えているのか、小学校の先生に聞いていただく機会を設けたり、またはお子さんが幼稚園や保育所に通っている時に、聞いてみたい内容の話をしていただいたりすることが保護者にとっては役に立つのではないかと思います。このような内容の講座であれば、私と同じ世代のお母さん方から「一時間寒いけど我慢しなくちゃね。」とか、「どこの学校に行っても、良い内容の講座が聴けて安心して小学校に通わせられる。」と言った感想を持ってもらえると思います。ぜひ、満足できる子育て講座、就学時健診を目指していただければと思います。</p>
小沢会長	<p>地域でつながる家庭教育については、小さなお子さんを持つ親さんを行政や地域公民館、企業等が連携し、応援・サポートしていくことが必要になってきます。数年前には特別支援に関わる方針も策定され、3歳児や就学児に対する検診の重要性が指摘されました。地域をあげて親や子どもたちをサポートする、教育する、これから先の学校教育につながっていくこととなります。この部分についても</p>

	<p>注意深く見守りながら、事業を推進していく必要があると思います。また、この「家庭教育サポート」は非常に重要な取組であり、親子の学びを社会全体で支えることにより、親たちの大きな学びになる事はもちろん、地域全体の学びにもつながると思います。</p>
首藤委員	<p>4ページの「住民や NPO などによる地域活動に積極的に参加していると回答した県民の割合」についてですが、どこの誰に、何人くらいを対象とした実績値なのか、また、資料5ページ、放課後子ども総合プラン内の「放課後児童健全育成事業」について、27年度の具体的な実施内容及び28年度「放課後子ども総合プラン」としてどのような取組をするのか、この2つをお聞きしたいです。</p>
生涯学習課長	<p>まずは、「住民や NPO などによる地域活動に積極的に参加していると回答した県民の割合」の指標についてですが、平成27年に実施した県政世論調査の結果です。同年10月に公表しております。調査の実施概要ですが、福島県内全域、15歳以上の男女、個人、対象人数は1300人、有効回収数713人、有効回収率54.8%となっております。</p>
平久井主任	<p>「放課後子ども総合プラン」「放課後児童健全育成事業」ですが、市町村に委託をする形で、県内59市町村のうちいわき、郡山をのぞいた38市町村で実施したところですが。放課後子ども教室推進事業に関して、保護者の就労に関わらず、誰でも参加ができる活動です。28年度に関しては具体的な案や計画はこれからなのですが、「放課後児童健全育成事業」学童の児童たちをなんとかこの子ども教室に受け入れることはできないものか、推進していただける市町村どれだけあるかを現在、調査しているところです。来年度すぐというわけにはいきませんが市町村には働きかけていきたいと考えております。</p>
首藤委員	<p>働いている親のお子さんは放課後子どもクラブや、学童保育に行くことができますが、仕事をしていない親御さんのお子さんは行くことができない。実際に仕事をしていない親御さんのお子さんは鍵っ子だったり、一人で過ごしていたりすることが多いのが現状です。親御さんが働いている、働いていないに関わらず、子どもたちが放課後、友だちと遊んだり、充実した時間を過ごしたりできるような仕組みができたらいいなと思います。</p>
小野委員	<p>先ほどありました就学時健診時の親を対象とした子育て講座の内容ですが、各市町村で任された講師が、どういう風に話をするのか、</p>

	<p>教育委員会からの指示であったり、話す方の思いであったりと若干差はあるかと思えます。会津若松市には社会教育指導員4名いますが、これだけでは回らない、家庭教育インストラクターの講座を受けた方3人プラスという形で実施しています。40分から50分での講座であり、初めて小学校に入る親御さんに関しては不安がいっぱいありますので、親御さんが一番聞きたいこと、不安に思っていることを話すようにしています。入学した時には、いろんな友だちがいるので子どもと言えども緊張している、とにかく家に帰ったらお子さんが『「ホッ」とするような対応を特に心がけてください。』と言うような話をしております。また、親といえども完璧ではない、失敗することもたくさんあると言うような話、後は講師がこれだけは言いたい、伝えたいというもの。例えば食育など。そして、会津若松市独自として平成14年に策定しました「あいづっこ宣言」のパンフレット、リーフレットの内容を説明し、配っているのも現状です。幼稚園、保育所と違って小学校に入学すると、緊張感がある、その子どもの緊張感を親御さんには「理解してあげてくださいね。」と言うようなことも伝えていきます。</p>
<p>小沢会長</p>	<p>今の子どもたちは随分と恵まれているなと感じます。私たちが子どもの時代には「外で遊んでおいで」といつも言われていました。子どもたちが遊んでいると、子どもたちを見てくれる他人の親、地域の大人の存在があった、親さんが何をするわけではないですが、社会全体で子どもたちを育てていました。他人の親たちや地域の大人たちがどの子どもにも目を向けて育てているという環境があったのではないかと思います。ある程度子どもたちが大きくなってくると自分の子どもが育てにくい、自分で育てられない、というのが私自身の経験論です。自分の子どもは育てにくいですが、他人の子どもを育てていると考えたときに、社会全体として良い環境になってくるのではないかと思います。いろいろな学びの中で自分の子どもも、よその子どもと一緒に育てるといような環境を整えていく、また、子どもたちの安全を守ることが必要であり、そういう文化は日本の中で失っていけない部分だと思えます。そういう事がないと今の話題のように制度に頼ったり、社会教育的システムを整えたりすることが必要になってきます。こういう制度は「いつでも、誰でも」といような公平性は必要になり、考えるところが多い話題であると思えます。</p>

佐久間委員	ふるさと「ふくしま」の学び事業「ジャーナリストスクール」についてですが、この事業は何回目、どのように募集をし、集まってくる子どもたちの年齢はどのくらいなのか、詳しい説明をお願いいたします。
生涯学習課長	ふるさと「ふくしま」の学び事業「ジャーナリストスクール」につきましては、毎回、東京工業大学 池上彰先生をお招きし、今年で3年目の実施になります。今年の募集につきましては、会場周辺の学校が中心となりますが、ポスター、チラシを配布、また、生涯学習課のホームページを使って周知いたしました。対象につきましては小学校高学年から高校生までとしております。3日間に渡り、県立相馬高校新聞部顧問武内教諭、福島民報社、福島民友新聞社の協力をいただきまして6つのグループを作り、6つの内容の新聞作りを行いました。この「ジャーナリストスクール」に関しましては、過去3回、県北、いわき、会津の順で行い、来年度につきましては郡山方面で実施する予定です。
小沢会長	この学びの事業に関しまして、成果はどのように反映しているのかご説明いただきたいと思っております。
生涯学習課長	作成した新聞については5万部以上印刷いたしまして、避難している方や部数としては少ないですが、県内の公立、県立、国立、私立学校等に配付しました。また、生涯学習課のホームページに掲載しております。来年度は部数を増やす予定であり、教育委員会の協力を得ながら、作成した新聞を大いに活用していただくようお願いしたいと考えております。
双石委員	5ページに戻っていただきまして、中程、「地域のたから伝統芸能継承事業」伝統芸能復興サポート事業について「地区説明会12回開催」とありますが、浜通りで津波を受けた特定の地区12回なのか、県内全域で12回なのか、説明会を開いての実績、成果を教えてくださいたいのですが。また、伝統行事、民俗芸能の存続について、第一人者懸田先生が映像での保存を始めたようで、やっぱり継続は難しい、途絶えてしまうのではないかと、この危機感から映像を残しておくしかないということでしょうか。
大波主幹	伝統芸能のサポート事業ですが、今年度の新規事業として始まりました。懸田先生を中心にNPOの方に御協力をいただきまして、県内各地で地区説明会を12回開催いたしました。県内の民俗芸能団体の現状、助成制度等の説明や意見交換を行いました。この説明

	<p>会に参加したことで、「道具を流されたが、補助を受けることができるのか。」等の情報交換ができ、その後、補助金の申請を行った団体もいくつかあります。また、説明会后、「復活を果たした団体の事例を聞いて大変参考になった。」という声も多く聞かれました。ぜひ、団体ごとに「個別に専門家の助言を受けたい。」という声も増えてきています。来年度以降もこの事業を継続する予定です。更に今年度の総括として今度の土曜日2月13日に郡山市で、復活を果たした団体等の事例説明会を開催する予定です。また、なかなか担い手がない、復活が厳しいなどの伝統芸能については、現段階で映像として残し、後々、担い手が見つかった時にその映像を見ながら、復活する手助けをしたいということで、そちらの方は懸田先生が中心となって進めているところです。</p>
<p>双石委員</p>	<p>白河市でも伝統行事、盆踊りがあるのですが、年々減少傾向にあります。ところが戊辰戦争の時に西軍が白河の踊りを岐阜県大垣、山口萩にまで持ち帰り、今でも、「白河踊り」として残っている。こちらで踊られている数よりもはるかに多い。西軍が楽しかった踊りを持ち帰り今でも保存されています。</p>
<p>小沢会長</p>	<p>産業や地域の活性化に大きな影響、相互関係があり、青年会議所さんもいろいろな人材育成事業を行っているとは思いますが、こういう文化的な部分について、若手の経営者の皆さんがいろいろなサポートをなさっている、もし、そのような事例がございましたら、ご紹介願いたいのですが。</p>
<p>石田委員</p>	<p>私の所属は浪江青年会議所です。郡山に避難をしています。浪江の文化として大堀相馬焼であるとか、請戸の踊りなどを自分たちでもう一度調べたり、調べている事を地域の人に話を聞きに行ったりしています。また、調べた資料を役場に提出したりもしています。自分たちで改めて調べていることなどを避難している人たちに発信することを各地区青年会議所の皆さんは始めています。昨年、相双地方に高速道路が通り、文明的発展が進んでいるところです。心のよりどころになるのは今まであった郷土の文化です。これをいかに大切にして、地元の人たちに愛郷心として育てていくかが私どもの一つの事業としています。県内には19の青年会議所があり、約800名のメンバーがいます。このネットワークを生かしながら全国に発信して、福島ファンづくりにつなげたいというのが最終的な私たちの目標です。</p>

小沢会長	アーカイブ拠点の構想にも関わって、全県的な取組にしていかねければいけない、このアーカイブ拠点について、事務局から説明をお願いしますか。
生涯学習課長	アーカイブ拠点については、被災地域の復興、コミュニティの再生ができる場所にしたいと考えています。アーカイブの機能として教育、人材育成、人々が交流できる場所という多目的な施設にしたい、基本構想を作る上で、具体的な検討をしていきたいと考えています。
石田委員	アーカイブ拠点施設というのは東日本大震災、原子力災害に関わる施設で、神戸にある「人と防災未来センター」をイメージし、参考にしたものなのでしょうか。
生涯学習課長	阪神・淡路大震災記念「人と防災未来センター」は、有識者会議においても「展示」や「資料の収集」「防災減災の研究」等、参考にした施設の一つです。施設の規模や建設場所、機能等など、具体的にどのような施設にしていくかは、基本構想策定の中で決めていくことになっております。
小沢会長	被災地に関わって松本さんにお尋ねします。今、説明がありましたとおりの文化財的な物を残すことについて心配であるとか、他に何か課題等がございましたら、ご紹介願いたいのですが。
松本委員	<p>請戸の「田植え踊り」「流れ山踊り保存会」が浪江町で復活しております。</p> <p>請戸の人たちは津波による被害が大きく、家や財産はもちろん、祭りの共有財産なども流されてしまいました。しかし、踊りの衣装などは全国からの応援によりそろえられたということで大変喜んでおりました。浪江町には地区ごとに踊りなどの芸能があり、2つ3つは復活しているようですが、実際問題として、踊りの衣装や道具がなくなった、何よりも地区の人々が避難して各地に散らばってしまったと言うのが大きな理由です。復活させることは大変苦労しているのが現実で、人材を集めることについても厳しい状況です。着物や道具に関しては、皆さんからの応援で助かっていることがとても多いです。</p>
小沢会長	地区の文化や芸能など、みんなで愛でることが生涯学習であり、先人に学ぶこと、これから先一緒に頑張っていこうと言う部分が力になるのかなと思っております。中山さんにお聞きしたいのですが、入館者数だけが数字ではないと思うのですが、美術展を開催して美

	<p>術で地域を盛り上げる、美術館又は博物館に関しての課題等がございましたらご紹介していただけないでしょうか。</p>
中山委員	<p>私たちの美術館で開催いたしました展覧会ですと、時期によっては市内に限らず、県内の方をはじめ県外の方も来られます。皆さんが関心のある事を取り上げることが大切であると分かってはいるのですが、なかなか広報が難しく、「知っていれば行ったのに。」という声がたくさんあります。</p> <p>展示企画内容を新聞社さんに取り上げていただくと県内くまなく、県外まで広報することができます。最近ですと郡山市出身で大正、昭和戦前期にかけて東京で活躍した彫刻家があります。生前は大変活躍し華々しい生活を送っていました。しかし、割と早い時期に亡くなり、時代が戦前、また、作っていた作品が古風だったため、市内の人々からも忘れられてしまった。戦後70年経って当時のこと、いろんな意味で社会的文化などタイムリーだと思ってこの彫刻家の企画を組んだのですがなかなか関心を持ってもらえない、この企画展を御覧になった方に伺うと「こういう方がいたということを知った。」「重要な活動をした方なんだなと改めて知ることができた。」という声がありました。そういう部分が伝えにくい、難しいところだなと思っております。</p>
小沢会長	<p>集客という意味で、こちらの意図をきちんと伝えると言うことは難しい。いろいろなメディアを使っても、来ていただければ二つの側面から様々な事を学んでいただけるのだが、齋藤委員のところでも集客についてはご苦労はありますか。</p> <p>レクリエーション協会齋藤委員のところもいろいろな意味で大変なことはありますでしょうか。</p>
齋藤委員	<p>集客に関しては、どんな事業をやっても常に頭が痛い問題です。どうすれば多くの方に来ていただけるのか、どうすれば来ていただきたい層に情報が届くのかなど、いつも悩ましいところです。新聞社に行ったり、会議があるときには宣伝広報をしたり地道にやっていくしかないと思っておりますがその前に、レクリエーションで何者？と言うところから始まり、それを分かっていたくためにも、「いろんな所に出ましようね。」という話をしています。</p> <p>「復興に向けた多様な主体との協働推進事業(文化振興課)」の「NPO法人等基礎的能力強化事業」で、NPO チャレンジインターンシップで今年初めて受け入れを行いました。スムーズに進まず少々面倒</p>



	<p>なところがありました。大学でインターンシップ希望の学生を募集し、マッチングを行います。このインターンシップに20名しか採用されなかった。また、マッチングの問題があり本当にレクリエーションに関心、興味のある学生さんが来なかった、また、時期の問題、期間が決まっていて短い、都合が合わず「この時期でなければ受けることができたのに」ということもありました。また、インターンシップが終わってから報告会を行います。その報告会を行う前に学生さんが書いた報告書を必ず、「受け入れた団体に見せてください。」と言われたそうです。受け入れる方も学生さんも取り組みやすい方法だとありがたいなあと思いました。</p>
<p>小沢会長</p>	<p>いろいろなことにチャレンジすることは必要であり、また、それが定着すること、来年度も「NPO 強化を通じた若者定着・地域活性化事業」ということで、継続されるようですが、「継続」という意味で、全国生涯学習ネットワークフォーラムのいろいろな取組であるとか、仕掛けの継続というのも課題になるのかなと思っています。スモールグループでのディスカッション、熟議する際の手法が定着してくれば、地域でいろいろな事案を考えるときに仕掛け作りになるのかなと考えているのですが、ネットワークフォーラム全体のことも含めて、三瓶先生お願いします。</p>
<p>三瓶委員</p>	<p>全国生涯学習ネットワークフォーラムに関して、ワークショップの中にワールドカフェという手法をレクチャーさせていただきました。「わくわくどきどき」のリーフレットに関して、私はまだ、目にしていませんが、このワールドカフェ方式を使って、初めて子どもを小学校に入学させるお母さんたちの不安というのを吸い取るという意味では、大変有効な手段ではないかと考えています。ちょっとした形式で双方向の不安とか本音を聞き取れるという利点があります。1時間で2回転できますし、90分あれば本当に深い本音の部分についても話し合うことができます。また、県や市町村のような主催者側にも、親御さんたちが不安に思っていること、今後どのような取組が必要か、親御さんの本音の声や意見を吸い上げることもできます。現在、一方的な講演会方式、レクチャー方式は主流ではなくなってきました。アクティブラーニングという言葉があり、子どもたちや大学の教員も一方的に教壇に立って話すことを文科省は止めさせる、いわゆるパラダイム転換をすごくさせられています。ワークショップにはいろいろな手法があります。今回はワールドカ</p>

フェ方式を社会教育主事の方に紹介させていただきました。ワールドカフェ方式について社会教育主事等の皆さんは正直、表情や話し方が堅い、また、ワールドカフェの進め方が分からないということがありました。公民館の職員もこのワールドカフェの手法を知らないとなると、公民館はただの「場貸し、部屋貸し」に終わってしまうような気がします。そういうことも含めて、新しい手法をいろいろなところで生かしてほしいというのが一つです。

それから指摘させていただきたいのですが、私は大学の教員をやっているので、大学生と常に関わっています。今回、進行管理ということで、平成27年度の進捗状況を見させていただいたのですが、私が担当している生涯学習概論で50名の学生といつも公民館、生涯学習機関を回っています。公民館、学習センターには基本的に大学生向けプログラムがほとんどない、先ほどインターンシップの話がありましたけど、大学生が公民館を知らない、学生たちは、スポーツ少年団以来公民館に行っていない、夏休みの読書感想文であるとか、冬休みの書き初め以来公民館に行っていない。ショックだったのは福島市には公民館がないとっていて、私が「あるよ」と言ったら「学習センター＝公民館」と思っていなかった。いかに存在感がないかということ。大学生は社会人の一歩手前で若い力で発想力もあります。公民館、社会教育、生涯学習の中で、学生の力をいかに引き出すか、この若い力を取り込みいろんな事業をやっていただければ、学生も社会教育に関われるし、インターンシップの他にも学生や社会人の方々が地域と直にふれ合う事ができるプログラムも展開できるのではないかと、思います。

もう一点、「生きる力」についてです。「生きる力」を育むというと文科省では、子どもの「生きる力」となります。高齢者に目を向けると現在の日本人男女の平均年齢は84歳、女性だけですと89歳、定年年齢65歳であれば残り、25年～30年は生きなければならない。シニアの方は、退職後の20年間をシニアとしてどう生きていくか、シニアとしての「生きる力」を考えていく必要があるのではないかと、思っています。生涯学習は基本的に高齢者をどうするかというのが主でした。今日の話には高齢者、団塊の世代の話が出なかったのですが、せつかく子どもたちをどう育むか、団塊の世代の人たちをどう取り込むか、子どもたちとシニアをいかにマッチングさせていくかが大切になってきます。大人から子どもへ継承

	<p>する、文化を伝える。どのようにシニアとしての「生きる力」や「役割り」を与えていくか、子どもだけに力を入れるのではなく、シニアにも力を入れていく必要があるのではないかと考えています。それから、子どもとシニアの「生きる力」のバランスが悪い、どうすればうまくバランスを取れるのかを考えていく必要があります。そこで、ちょうど真ん中にいる大学生を活用したプログラムが必要なのではないか、生涯学習はゆりかごから墓場まで関わっています。大学生が関わらない生涯学習はバランスが悪いなど言うのが正直なところです。</p>
小沢会長	<p>それぞれの人が担わなくてはならない「役割」というのがありますが、一方的に何かの「役割」を人に押しつけるのでは、難しいのかなと思います。そういうときに「役割」を理解する意味では、ワールドカフェのような手法を使って、地域の課題であるとか今の課題等をみんなで理解、共有することで「役割分担」についての理解が容易になるのではないのでしょうか。全国生涯学習ネットワークフォーラムについて成果の継承であるとか、継続事業等お考えがございましたら、御説明お願いいたします。</p>
生涯学習課長	<p>全国生涯学習ネットワークフォーラムの成果の継承について、今後どのように生かしていけば良いかということですが、一例として「ニュースレター」を発行したり、また、社会教育関係の会議時にネットワークフォーラムの報告書を配ったり、取組の手法について継承していけるような工夫を今後していきたいと考えております。只今の話にありましたように、団塊の世代の事業ということがありましたが、ネットワークフォーラムにおきましても福島市アオウゼ市民サポーター「アクティブシニア」の活動の様子を紹介していただきました。このような団体の活動などを紹介したり、広めたりしていきたいと考えております。</p>
小沢会長	<p>指標について、数値資料が出ております。これは8年間にわたっての計画であり、指標の中には既に達成している項目や数値があります。今年で前期3年が修了、4年目になりますので、中間見直しや中間評価する必要があるのかなと思います。数値目標というのは大事な評価指標であり、今の状況を確認するという意味では大きいのではないのでしょうか。達成してしまった数値に関しては新たな数値を今後設定しておく必要があると思います。また、時代の状況に合わない目標もあります。この場で数値目標を設定するのは難しい</p>

	<p>ので、数値については事務局に任せ、進捗を踏まえて検討してほしいと思います。</p>
生涯学習課長	<p>指標につきましては県総合計画や他の部門別計画でも使用している例があります。例えば県総合計画、文化振興基本計画、総合教育計画などに取り上げていただいております。共通して使用している指標については関係各課に相談しなければいけない項目もありますが、頂戴しました御意見等を踏まえ、来年度へ向けて必要な指標については見直しをし、関係各課と協議していきたいと考えています。</p>
石田委員	<p>アクアマリンの入館者数がありますが、この数字から見えてくるもの、例えば来館者の内訳が県内、県外の方の人数、また、アクアマリンの周辺の観光・商業産業がどれだけ潤ったのかまで知りたいと思います。県内、県外、外国人観光客の人数の内訳数が分かれば、広報の仕方を工夫したり、それに合わせた人を呼び込む方法を考えたりすることができるのかなと思います。</p>
小沢会長	<p>今、石田委員よりアドバイスを頂きまして、そういうところを含めて意見等をお願いします。指標はあくまでシステムが動いているとか、何か課題がないかとかそういうことをチェックする指標と考えますので、その指標の数値だけを満足させるだけではなく、いろいろな取組の仕掛け作りを周知できればいいのかなと思います。</p>
高橋委員	<p>今、県から生涯学習基本計画の進行管理又は指標の進捗状況の説明がありました。県生涯学習課の基本計画、方針はこうするんだと言う考えを説明していただいたのですが、私の現場である公民館では、市の方針等を地域の方にうまく伝わらないことがとてもたくさんあります。先ほど三瓶先生の話の中にもありましたが、公民館が場貸しになっているところがあります。県からは「これをやりたい、この人たちにこれを伝えたいんだ。」ということを私がこの場に來ているので、感じることはできるのですが、市からだ「こうするんだ」という明確な方針が伝わってこない、市の方針や市制の伝達が抜けてしまっています。地域では求めているのですが、なかなか浸透しないといった残念な状況がずっと続いているような気がします。市町村行政の担当者会議の時に、行政の方はしっかりと方針や目標を説明はしていると思うのですが、それを何でもっと地元や地域に伝えてくれないのかが、とても不思議というか、納得いかないところでは。先ほど、地公連の話の中で地域公民館が地公連を脱退していくという話もありましたが、市町村の公民館の主事の役割と</p>

	<p>いうのがちょっと弱くなっているのかなと思います。公民館と地域がうまくつながらない、県や市町村のこの「やりたい」という方策等が地域にうまく広がらない浸透しないというのがすごく残念です。また、先ほどの家庭教育ですが、今年、県で「これをやりたい」と言うのは大変良く理解できました。しかし、実際、地域の就学時健診では、「はい、やってますよ。」とは言ってますけど、ふたを開けてみれば、そのとき担当した先生たちが思うところをただ話をし終わりにみたいな形もあります。この3年間でこれをもっとやろうということ県だけが力を入れて言っている気がします。地域がそれに倣って、進めようと言う気持ちになるような伝え方を工夫していく必要があるのではないかと思います。私たち公民館職員のアンテナは古くてさびてるのかなという気はするのですが、そのアンテナを磨く研修、例えば主事部会のような研修に一般的に民間で働く人たちも受け入れることができる研修にするなど、積極的に取り組んでいかないと、人は来ないし、伝えたい人に伝わらないという状況の打開策にはならないような気がします。</p>
<p>小沢会長</p>	<p>現在、お年寄りの数も増え、社会の制度も変わってきている、また、お金もなかなか出しにくい、その一方で県の生涯学習に関わっているところでお金を用意されている。この双方を担う人材の育成を目指していかなければこれからの時代、地域の人材育成は大変なのかなと改めて思います。今、ご指摘いただいた内容について、今後は地域が一丸となり、みんなで相談をしていくことが大切になると思います。私は意見を言う人、私はやらない人ではなくて、私は意見も言うし、もちろんやる、一緒に実現をしていかないと、制度とのミスマッチが起こる可能性もあると思っております。先ほど三瓶先生からご紹介がありましたが、ワールドカフェのような手法を用いて、自分たちで地域の課題を認識すると同時に、誰がやるのかという問題も出てくると思います。誰がやるのか、それは今、私たちが一番考えなければならない部分でありみんなが、全ての人がワーカー、プレーヤーである。そういう認識のもと、人材育成の機能も含めて豊かな世界、豊かな社会になるように私たちは努力していかなければならない。社会に住んでいる私たちは自分の発揮すべき力はあった方が楽しい。この部分を強調しながら世の中の人を育てるということ、互いに学ぶという仕組みを構築していくことが必要なのではないかと思います。引き続き、ここにいらっしゃる</p>

	<p>委員の皆様には、今話したことを踏まえ、生涯学習審議会の場合ですとか、それぞれのグループの中においてもコアになって考えていただければと考えております。まとめるような形になってしまいました。また、機会をつくらせていただければと思います。</p> <p>では次第（２）、その他 と言うことで委員の皆様から何かございますか。</p> <p>（ありません。） 事務局からはありますか。（ありません）</p> <p>事務局にお返しいたします。ありがとうございました。</p>
司会	<p>御審議ありがとうございました。閉会にあたりまして、文化スポーツ局長より御礼を申し上げます。</p> <p>（局長御礼）</p> <p>これをもちまして、本日の会議を終了いたします。委員の皆様、長時間にわたり、御審議ありがとうございました。</p>